

## B-2 指導法の工夫

### 意欲的に学習するための手だて

入れ物とふたで構成される円柱の箱である「基本の形」ができれば、子どもは難しい箱が無事にできた喜びで、開けたり閉めたり物を入れたりなど、開け閉めできる喜びをしばらく楽しむであろう。したがってその円柱の形態を大切にしたいと思う子どももいるかもしれない。しかし、本題材では部分を加えて全体を楽しい形にするのが学習であり、あらかじめ子ども自身もその方向性でアイデアスケッチをしている。ところがスケッチは、円柱の側面への部分付けが少なそうなものや、円柱のままのようなものもある。また、紙工作なのに彫塑のようなスケッチも見られる。この分だと、やはり円柱に対しては平面的な貼り絵的な表現で終わる子どもは少なくないと思われた。そこで、次のようにして意欲的な話し合いの中で前述の「AとBの見方考え方」を形成させ、これからの形作りには大切な留意点であるということに納得をさせた。

<課題をとらえるための手だて> = おもしろく わかりやすい情報の取り出しと解釈のために

#### ●みんなが思いや考えを持って話し合うために

- ・子どもが興味を持って見るように、視覚的に楽しい作例を作成し提示する。子どもが比較した場合にそれらの違いやよさに気づきやすいように（「情報の取り出し」のしやすさと後の「解釈」のしやすさ）、象徴的で互いに対照的な表現にして（下記）提示する。また、効果的な順に出す。

- ・作例提示1で前ページのAのために、基本の形に平面的につくられた部分を片側のみ加えた作例と、平面的な部分を周囲に加えた作品例を提示する。

※作例は無彩色で、部分の有無のみから感じられるようにする。

#### 1回目（左）作例a,（右）作例b



- ・作例提示2で前ページのBのために、上記の平面的に部分を周囲に加えた作例と、とび出る部分を周囲に加えた作例を提示する。

※作例は無彩色で、部分の形態のみで感じられるようにする。

#### 2回目（左）作例b,（右）作例c



- ・作例に対する自分の気づきや考えを明確にするために、思いを言語化（メモ）する場を設ける。

< 追求的に表現するための手だて > = はっきりした見方を使った演繹的な表現を通して熟考・評価するために

● 課題を視点に表現を追求するために

- ・子どもに表現の追求を促すために、AとBの見方考え方で自己鑑賞する場を適宜設ける。
- ・AとBのことで自分には思いつかなかった表現方法に出会わせ、表現方法を広げさせるために、AとBのことで相互鑑賞する場を設ける。

< 学習をふりかえり次の意欲を持たせる手だて > = ふりかえることがはっきりしている評価になるために

● 課題を視点に自分の学びを自覚するために

- ・自分の学びを自覚できるように、AとBの見方考え方（丈夫な接着接合方法も）をふり返り項目にして自分が行なったことを記述する場を設ける。
- ・子どもの表現やふり返りの記述からよさや努力を見取り、その内容を伝える。



< 作例提示 1, 2の様子 >

「どちらが楽しい置物に見えるかな。部分の加え方を見てよ。色のことは見ないでね。」

「ア(作例a)とイ(作例b)。さて、どちらが楽しい置物に見えたかな？」

情報の取り出し



「アとイではイの方が楽しい置物だったけど、イとウ(作例c)ではウの方がとってもいい。じゃあ、ウのよかったところを言ってもらいましょう。」



解釈

「楽しい置物にするためにはどうすればいいの？  
①からは何が大切だとわかったかな。②からは何が大切だとわかったかな。  
ワークシートにまとめよう。」